

(1) 教員の指導力、意識などを向上させるためには、どうしているのか。

戸田市立戸田第一小学校

○ 組織的な取組を重視し、以下のことに取り組んでいる。

<環境づくり>

- ・全教員が同一の土台に乗るための学び合う雰囲気づくりを大切にしている。
- ・学力向上全体計画、教科等の全体計画に基づく学習指導を周知している。
- ・ミニ授業公開を実施している。(授業研究と日常の授業のすきまの意識化)

<授業研究会>

- ・授業研究会に多くの指導者を招聘している。授業実践を通して「言語活動とは何か」について直接の指導をいただき、研究協議を積み重ね、次の実践へ生かしていくようにしている。
- ・授業の可視化をしている。授業のよかった点を記録に残し、参観者全員の意識を見えるようにして、明確な問題意識をもてるようにしている。
- ・授業を見る側は、自分だったらどうするかという意識で参加している。

<教材研究の充実>

- ・指導案検討の際、積極的にかかわり、授業者と同じ意識で授業研究に参加できるようにし、その後の新しい教材開発等に生かしている。

<学ぶ姿勢づくり>

- ・年次研修はもとより、学校外のような研修会へ積極的に参加し、研修した内容を実践に生かす。

飯能市立飯能第一小学校

○ 毎日の授業で実践していることを意識して行い、指導力向上につなげていこうと、以下のことに取り組んでいる。

<市全体の取組>

- ・飯能市学力向上プロジェクトである「K4-K1D(課題、活動、確認、価値づけ)」を推奨し、教員一人一人が授業力向上を図っている。

<授業の進め方の共通理解>

- ・毎時間の授業内容が板書でわかるように、一人一人が意識して児童の指導に当たっている。
(例)「課題」は、板書上では黄色の線で囲むことなどの徹底
- ・教員間でノート指導の約束を共通理解し、指導に当たっている。

<学校や教員のよさ>

- ・本校のよさである授業をお互いに見せ合うという研究風土を大切にしている。
- ・板書型指導案を活用した実践に取り組み、よりわかりやすい授業をめざして研究を始めたところである。

長瀬町立長瀬中学校

○ 教員の指導力向上のため、教員間で共通理解をし、以下に取り組んでいる。

＜授業力向上評価シートの活用＞

- ・お互いの授業を、評価シートを活用して5段階で評価し合い、指導力向上を図っている。主な評価項目は、学習準備、挨拶、授業規律、関心・意欲・態度、発言・発表、教師の話し方、発問、板書、支援、教室環境、本時のねらいと振り返り等である。

＜「学習習慣確立のための指導ガイド」の作成＞

- ・研究の各部会（調査部・対策部・実践部）が様々なアイデアを出し合い、指導ガイドを作成している。指導ガイド作成に携わることで、教員一人一人の指導力向上につなげている。各部会からのアイデアにより、本校における学習習慣を確立している。

＜「学級づくりの手引き」の活用＞

- ・校内研修の折、作成した手引きを職員全体で確認し、ベテラン教員から若手教員まで共通理解を図り、手引きに沿った学級経営を進めている。

＜校内研修の開催＞

- ・全体研修会を月1回、定期的に行い、各部会を適宜開催している。

宮代町立須賀中学校

○ 教員の指導力、意識の向上を図るため、以下のことに取り組んでいる。

＜研究内容の共通理解＞

- ・研究の内容を焦点化、体系化、構造化することで、全職員が研究内容を十分に理解し、同一歩調で研究を深めていけるようにしている。

＜学習指導要領等の理解に向けて＞

- ・「学習指導要領」や「学習指導要領解説」、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」などの理解と、それをいかに具体化して指導にあたるかという点に力を注いでいる。

＜授業研究の実施＞

- ・授業研究では、学び合う雰囲気づくりに努め、他教科の視点から意見を交換し合い、授業改善を図っている。
- ・日常の相互参観を通して、授業力の向上を図っている。

＜3部会による研究＞

- ・学力向上部、生徒活動部、家庭地域部の3部会において、ベテラン教員の経験や指導力と若手教員の意欲などを生かせるようにしている。

＜本校の研究の本質に迫る継続的な指導の場の設定＞

- ・各教科の特性に応じて、研究内容を実践し、生徒の姿や学力テストなどを通して成果を実感できるように努めている。